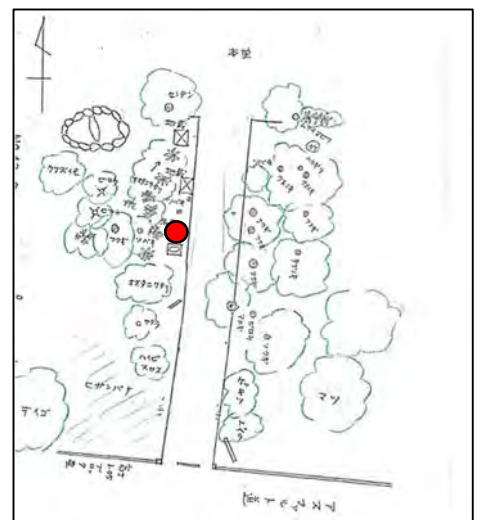


観音寺のフクギ



樹種名	フクギ	科名	オトギリソウ科	方言名	フクジ	学名	<i>Garcinia subelliptica</i> Merr.					
形状・寸法	樹高 12.8 m	胸高周囲 2.9 m	根本周囲 3.5 m	樹幹占有面積 81 m ²								
	枝下高 4.1 m	枝張 東 4.7 m	西 4.9 m	南 5.3 m	北 5.4 m	最大樹冠幅 10.7 m						
通称	観音寺のフクギ		樹齢 350 年(推定)	所有者	1 国 2 県 3 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明							
所在地	金武町金武222			状況	1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他							
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他 (史跡)			気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹(村文化財 1997年3月指定) 6 名木 7 その他 8 なし			(最寄りのア ダスター)	平均気温(°C)	16.6	16.8	19.0	22.2	24.9	28.7	
					降水量(mm)	22.0	47.0	95.5	100.0	197.5	38.0	
周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()			地点:那覇	平均気温(°C)	29.0	28.7	27.8	25.5	23.8	20.1	
				2015年	降水量(mm)	369.0	278.0	46.5	63.5	95.0	73.0	
土地傾斜	1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°)			傾斜方向:	平均風速	6.3	5.5	4.5	5.0	4.9	5.4	
					風向	SSE	ESE	N	NNE	NNE	NNE	
土壌	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			年平均気温	23.6 °C		最高気温 33.8 °C					
基岩・母材				年降水量	1425 mm		最低気温 9.6 °C					
地形	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪・窪 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			潮風の影響	1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)							
				日照条件	1 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良							
土性	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない			周辺樹木の 影響	1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))							
				周辺根元の 状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし							
根元及び周 囲の植生	草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし			周辺樹木と の関係	1 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている							

管理状況	1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ m、材質) 柵内面積 (m ²) 設置年 2 支柱 a 有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他										
過去の治療歴 と内容											
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明										
視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)										
特記事項	1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他 観光スポット										

地上部の衰退度判定（認定番号43）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、シヨウが状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く、胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.45

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

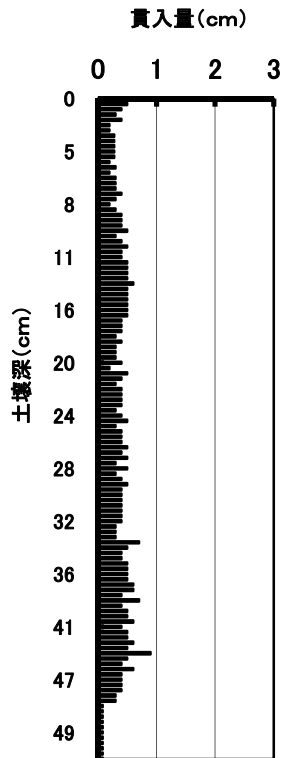
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係	○			
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ	○			
中・小枝落下		○		
幹の傾斜の増大	○			
その他				

土壤調査結果（認定番号 43）

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
A	7.5YR3/3	0-15	粒状	埴壤土	7.1	2.5
B1	7.5YR4/3	15-24	堅果状	埴土～埴壤土		
B2	7.5YR3/4	24-	—	埴土～埴壤土		

土壤貫入量結果



観音寺のフクギ

部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌は珊瑚石灰岩が風化した島尻マージで土層は浅く 30～50cm 程度である。 ・表層 0～8cm までは粒状構造、8cm 以深は堅果状構造となる。 ・土性は表層は埴壤土で、やや固決している。それ以深は風化した基岩の風化層となる。 ・pH、EC はそれぞれ 7.1、2.5(dS/m)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活力の減退が見られるので、根域を広げ根の発達を促すことが重要と考える。このため、コンクリートは透水性の舗装(部分的でも可)に変えることが望ましい。
根	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼棒貫入の異常は認められない。 ・根がコンクリート舗装を割っている。 ・樹皮に、上部の空洞の影響と思われる捲れが見られる。 	
幹	<ul style="list-style-type: none"> ・ガジュマル、オオタニワタリ、ホウビカンジュ等が着生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着生植物(特にガジュマル)は早期に除去する必要があると考える。
	<ul style="list-style-type: none"> ・北側 4.5m の大枝基部に深さ 10cm の空洞。 ・南西側 4m に深さ 40cm の芯に達する空洞。 ・大枝の基部に芯に達しない空洞(深さ 15cm)がある。腐朽の進行は見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し。 ・傷痕部は 2～3 年に一回程度観察を実施することが望ましい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・高さ 3.9m の幹の分岐部に亀裂が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・傷痕部は 2～3 年に一回程度の観察を実施することが望ましい。
枝	<ul style="list-style-type: none"> ・枝が短く、かつ細い。 ・中枝及び端梢部の枝の枯損が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落枝の可能性は低いので、枝の剪定は控える方が望ましい。
葉	<ul style="list-style-type: none"> ・枝葉の密度がやや疎で、葉が小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根域の拡大による樹勢回復措置により解消と思われる。
備考		

